

航海長主管理書凡長ノ權(消純西直接購買ノ)

品名	枝	甲	洗	荊	麻	生	帆	石	黍	スパンヤレ	ナイレスレット
名	糸	板	刷毛	莖ノ根	苧	木	布	敵	帚	小	巾
数	四百	六百	貳百	拾五	貳百	千	貳百	千	貳百	五	貳拾
重	本	個	個	キ	キ	反	反	キ	本	キ	キ
品名	シッキスレット	旗	唐	椀	人	杖	木	荒	晒	帆	帆
名	巾	布	糸	大	小	柄	針	砵	綿	糸	針
数	五	貳拾	貳	百	八	百	拾	拾	百	五	拾
重	キ	本	本	本	本	本	本	個	反	キ	本

0635

甲板洗刷毛	冬	枝采帚	人	樟松手帚	黍	石	枕	生	只	磨	帆耳縫針
六	柄	柄	小	大	帚	酸	布	綿	名	瓦	針
百	百	四	八	百	百	吉	百	千	教	百	五
回	本	本	拾	本	本	千	末	百	量	拾	本
洗	古	古	子	廢	レ	イ	荒	旗	只		白
刷	網	帆	ツ	ツ	キ	ス	荒	布	名		打
毛	布	布	ス	瓦	ス	レ	布	名	教		綱
百	吉	四	タ	百	大	小	拾	量	量		月
回	千	百	ツ	拾	中	大	五				三
	キ	末	ル	キ	拾	拾	回				五
	ン	突	ス	ン	キ	キ					拾
			タ	ン	ン	ン					キ
			フ								ン

0636

人	海軍	人	親王	長	軍艦	品	航海	帆	帆	帆	帆	晒	川
端	旗	旗	旗	旗	旗	名	長	針	針	針	針	木	萱
用	用	用	用	用	用	教	帆	針	針	針	針	綿	根
寸	四	寸	寸	寸	寸	量	帆	五	五	五	五	百	於
組	組	組	組	組	組	品	帆	本	本	本	本	及	於
人	直	人	人	人	人	名	帆	唐	木	麻	麻	ス	白
四	旗	端	端	端	端	教	帆	糸	綿	針	針	パ	打
寸	幅	用	用	用	用	量	帆	五	針	針	針	ヤ	綱
寸	寸	寸	寸	寸	寸	教	帆	寸	針	針	針	ヤ	於
梳	梳	梳	梳	梳	梳	量	帆	寸	針	針	針	ヤ	於
梳	梳	梳	梳	梳	梳	量	帆	寸	針	針	針	ヤ	於
梳	梳	梳	梳	梳	梳	量	帆	寸	針	針	針	ヤ	於
梳	梳	梳	梳	梳	梳	量	帆	寸	針	針	針	ヤ	於
梳	梳	梳	梳	梳	梳	量	帆	寸	針	針	針	ヤ	於

0637





塗品	刷毛	大	名	教	拾	木	重	航海長生管船匠師	尺蒸	小	中	大	釘	燈	四三蒸	壺	全備	砥	小	中	壺

塗品	刷毛	中	名	教	拾	木	重	撥	入	透	今	打	小	釘	四	三	今	外	九	盤	五
									際	具箱	小	大	刀		同	同		九	盤	五	蒸
										錠片					大	大	三	蒸	蒸	蒸	蒸
															六	九	蒸	蒸	蒸	蒸	蒸
															拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾
															八	八	八	八	八	八	八
															木	木	木	木	木	木	木

0640



供覽

總務部長 (南田)

第一部長

第二部長

第三部長

第四部長

第一課

第二課

第三課

第四課

別冊之通軍所長 自傳用 航海報告

及呈出候也

軍務局

明治三十四年一月七日

教育本部

第一部長

部員

經理局

第一課長 (山本)

第二課長

第三課長

医務局

第二課長

海軍所長 角田秀松殿

軍令部

次長

第一局

第二局

第三局

水陸

艦隊第一七號

海軍



0642

軍艦五口妻  
自佛國  
至本邦航海報告

海

軍

1100

0643



凡例

- 一、軍艦吾妻本邦回航ノ途上、シンガポール迄テハ天候多クハ平穩ニシテ  
 異常ヲ見ガリシト雖モ支那海ニ出ヅルヤ身節恰モ大風盛吹  
 時、屬シ連日荒天ノ阻碍、遭ヒ頗ル行船難ク感ビシ  
 ノタリ即當時中央氣象臺ノ觀測セル氣象圖ヲ未  
 尾、添加シ參考ニ供セリトス
- 一、本記事中針路方位ハ總テ磁針ニ由ル
- 一、本記事船首ハ船尾ハ航右舷ハ船左舷ハ航ト書スル所  
 下リ又哩ハ海里ノ略字トス

明治三十三年十月

海

軍

洋  
書  
目

吾妻航海長 橋本又吉郎  
吾妻築組 大角火守

0646

軍艦吾妻自佛國至日本航海報告

軍艦吾妻領収

明治三十三年七月二十八日纜ヲ解キテ埠頭ヲ離シ港外ニ假泊シ爰ニ本艦ヲ領収ス即午後五時五十分帝國軍艦旗ヲ掲揚シ一同最敬禮ヲ行ヒ了テ御眞影ヲ拝ス

顧こしバ明治三十一年二月十五日「パール」會社ノ船臺ニ龍骨ヲ据ヘシヨリ十月六ケ月ヲ經テ三十二年六月廿四日進水ハ式ヲ舉ゲテ本表「パール」ハレヲエツトニ繫留シテ專ラ艦艇ニ努メ本年六月十六日準備運轉ノタメベル島附近ニ航シ次テ七月十六日大砲公試發射ノタメ再々浦ノ島沖ニ出ツ艦底塗替ヲ行フ前後三四諸機ノ設備多少竣成ノ運ニ到ラザルモノアリト雖ニ東亞ノ風雲ハ一瞬ノ遲滯ヲ忽セシムルヲ容サス即チ督勵シテ工事ヲ急ガシメ先

陸軍分社印

0647

の戦闘航海ノ任務ニ耐ヘ得ルヲ以テ程度トシ念ニ本年七月二十八日ヲ以テ  
我帝國ノ艦籍ニ入ルニ至リタルモノナリ茲ニ一言スベキハ公試運轉ヲ施行セ  
ズシテ本艦ヲ受領シタルノナリ且ニ準備運轉ヲ施行スルニ當リ略計畫  
吃水ニ近カラシメ次ノ好結果ヲ得タリ

自然通風全力

實馬力

一萬五千四百七馬力

速力

十八漚七三六

吃水

前部

廿呎九吋

後部

廿五呎八吋半

畢竟此際公試運轉ノタメ時日ヲ費スハ前記ノ主旨ト相背馳スルモノナレバ  
ナリ但シ電線ノ道ヲ設未了ノ部分アルヲ以テ會社職工十八名ハ止テ本艦  
ニ寢食シスピット(ツト)先艦前ニ竣成スベキ條件ヲ附シタリ

此日午後皇國軍艦旗ヲ掲揚セシ後佛國政府ニ對シセ一祭ノ禮砲ヲ行フ  
港ヨナルビルエスマルツシノ砲臺ヨリ同數ノ發砲ヲ受ケタリ

サシチゼール港

市

サシチゼールハ、ロートアル河ノ北岸ニ位シ佛京巴里ヲ距ルヲ三〇五哩ニシテ  
ロイヤル及ビロシエフアル兩軍港間ニハ在セル一商港ナリ此地モト寂寞  
ナル一荒村ニ過ギザリシガ一八五十六年初メテ開港セシヨリ人口漸  
ク増加シ現今ハ約四百五十ノ以テ數ヘ商業會議所、株式取引所、  
税関、倉庫、會社トノ設立ヲ見ルニ至リタリ然レ其發達タルヤ比  
較的遷ルタルヲ免レザルガ如シ官衙ハ郡役所、市役所、及地方裁  
判所等アルニ過ギズ

通商

南派諸邦若クハ西印度諸島ニ移住スル佛人ノ過半ハボルトー及  
ビサシチゼールヲ以テ母國ヲ去ル最後ノ地トスモノ多ク、大西洋汽船會社  
ハ此等ノ地方並ニハバチコラシナ間ニ定期航海ヲ經營シワ、アリ其

他英米西諸港間ニモ荷船ノ交通頻敏ナリ貿易品ノ主要ナルモノハ石炭ノ輸入ヲ以テ第一トナシ木材鉄鑛之ニ次キ輸出品トシテハ砂糖牛酪葡萄酒五穀ノ類其大部分ヲヤマト云フ

軍隊

此地ニ駐在スル兵員ハ僅ニ一大隊ニシテ歩兵第六十四聯隊第三大隊衛戍ノ任ニ當レリ目下陸軍歩兵少佐ホーランド氏之ハ大隊長ナリ又砲臺教習備、ク、數個小隊ノ要塞砲兵ヲ附屬セシム

工場

造船工場ハアメリエト、エ、シヤシケエト、ドラ、ポーアル及ビ、コシバキ、キ、セ、ネ、ラ、ル、ト、ラ、シ、ア、ト、ラ、シ、ケ、フ、ク、ノ、ニ、會、社、アル、ノ、コ、シ、シ、テ、他、ハ、微、小、船、ス、ル、ニ、足、ラ、ス、前、者、ハ、屢、ル、佛、露、希、アル、ゼ、ケ、レ、等、諸、政、府、ノ、命、ヲ、奉、ル、テ、數、多、ク、軍、艦、ヲ、構、成、シ、タ、リ、皇、艦、ハ、往、年、千、島、ノ、建、造、ヲ、以、テ、嚆、矢、ト、ナ、シ、秘、吾、妻、ハ、實、ニ、第、二、次、ニ、ア、リ、現、今、船、臺、ニ、ハ、併、解、テ、ゼ、レ、及、ビ、ア、コ、ラ、ル、ガ、リ、ブ、レ、ノ、ニ、隻、及、ビ、數、隻、ノ、小、商、船、ア、リ、後、者、ハ、專、ラ、該、社、自、用、ノ、汽、船、ヲ、製、造、ス、ル、ヲ、以、テ、主、眼、ト、シ、傍、ラ、船、舶、ノ、修、復、ニ、應、ズ、併、米

0650

定期航海用トシテ何レモ一萬五千噸ノ排水量ヲ有スルヲローレンス及ビ  
サヤチヤノノ兩船モ近年其船臺ヨリ浮出セシモノナリ又此地ヲ距ル地方  
約三里ニシテフリンヤクシ製鋼所アリ前記兩社ノ如キハ多ク之レヨリ

造船材料ノ供給ヲ仰ゲリ

繫船池

外港ハ流潮急激ニシテ淺所多ク于満潮ノ差亦大ナルヲ以テ錨地

ニ便ナラストス故ニ二個ノ大繫船池ノ設ケアリ外方ノモノハバウサント

サンチヤールト呼ビ面積一〇五四、パール(我十一町歩餘)堰周一五七九

米突ヲ有シ小舟潮ニ於テ六米突ニ〇乃至八米突五〇ノ水深ヲ有ス

内方ノモノハバウサント呼ビ面積二二四五、パール(約我二十

四町歩)堰周一六九六米突ヲ有シ小舟潮ニ於テ八米突ノ水深ヲ

保ツ而シテ内外兩部ハ溝渠ニヨリ互ニ相通シ得(カラシム)繫船池

ノ周圍ニ幾多ノ巨庫アリ且ツ鐵道トノ連絡至便ニシテ船荷

ノ積卸運搬等又易々ナリ水門ハ其幅二十五米突及十三米突

ノ雨水開ヨリ成リ目今南方ニ面シテ更ニ新門開設工事ヲ施シツ  
ノアルヲ見ル竣成ノ後ハ出入船舶ニ便益ヲ興フルヲ現今ノ比ニア  
ラサルマシ

船渠ハ三個アリ第一號ハ今春渠長ヲ擴大シタルヲ以テ一萬噸以上ノ船  
舶ト雖モ容易ニ入渠スルヲ得ベシ其容積ヲ示セバ尤ノ如シ

0652

横濱分社印

番號 幅 長 深

小鼻潮 大鼻潮

一 二五米突 一八五米突 七米三〇 八米五〇

二 一三 一二〇 四〇〇 六五〇

三 一八 一七〇 七三〇 八八〇

水先 水先區域ハ次ノ如ク分割シ一區ヲ九渥トス

四燈 兼

自ベル島 至

ラ、バンシユ、  
ル、ビリエー

四區

※四燈トハレナルバンシケエー水道ノ北方ニアル航路浮標ヲ云フ

四燈

自

ラ、バンシユ、  
ル、ビリエー

至レニナルバンシケエー 二區

0653

自レ、レヤル、パンケエー

至ボンヌパンヌ

一區

自ボンヌパンヌ

至サシオゼール

二區

合計九區

而シテ、水先限界ハ、島ノ外方九湮ヲ以テ終点トオスト雖モ

出入船舶ハ此境界外タルニ関ハラス水先人ノ乘船ヲ兼認スベ

キ義務ヲ有ス但シ水先料ハ規定以外ニ任拂フヘキ限リニアラス

氣象 本艦領収後翌日、出港セシヲ以テ充分ナル觀測ハ、因ヨリ望

ミ得カラズ殊ニ領収以前ニヤリテハ、測器整備セサルモノアリテ

日常ノ記註モ明ナル能ハズビスケール、湾ノ天候、風候ハ水路誌

ニ記シテ詳ナリ

0654

自サンナセル至スピットヘッド

行程 四五七哩五

航路 明治三十三年七月廿九日黎明鐘ヲ拔キテ英國スピットヘッドニ向テ蓋シ

彈薬ヲ搭載シ兼テ水雷公試發射ヲ施行セシメカクナリ

ボレヌー、クヤンネルヲ航下シ、シヤルパンケチ水道ヲ過ギ、後ニ水先人ヲ

却レシベル島南方ニ至ル之レカ水先料トシテ仕拂タル金額九ノ如シ

水先料

百五七法五十仙

雇航手

但シ能ク水路及ビ  
海流ヲ熟知セシメ

十五極法

夫レヨリ四維鍼ヲ修正シ自差ヲ測定シタル後、ベル島西南端ナルグールフ

アール岬燈臺ヲ北ニ東四哩半ニ見テ北西ニ定針ス、則テ北緯四十

七度十四分廿秒、西經三度十二分四十分ヲ以テ起程地ト定ム、時ニ午

後六時世五分ナリキ、十時廿分パンレットノ赤色閃光燈臺ヲ航正横

九哩ニ經過シ、廿日午前一時十四分針路ヲ西北西ニ北ニ爰ス、是レ流

潮ノタノ北偏セシメラレシヤノ虞アリシヲ以テナリ果セシ哉一時世五分ニ至  
 リラウエイユシ燈光ヲ航正横ニ望ミタルギハ其距離僅カニ八哩ニ過ギ  
 ガリシ因テ針路ヲ南八十七度西ニ取リアルマレロツクノ燈光ヲ東ニ北  
 十四哩見テ北西ニ変針シ更ニ詠燈光ヲ東ニ北ニ見テ正北ニ変  
 針ス五時十分ウツシヤレ島西端ニアル燈臺ヲ東北東北北二十哩  
 ニ見テ北東ニ定針ス六時同燈ヲ航正横十海里ニ見テ  
 北東ニ東ニ操リ英國南岸スリトオイントニ向テ羅織誤差ノ  
 變更稍大ナルヲ以テ此日午前十時再ビ其修正ヲ始メ午後一時  
 廿五分之ヲ終リ東北東ニ定針ススリトオイント燈光ヲ認メシカ  
 ノ七時廿分更ニ北東ニ東ニ變針シ九時詠燈光ヲ航横十哩ニ見  
 テ東ニ南ニ變針ス廿一日午前一時三十七分針路ヲ東北東ニ變  
 ジゲネールストン燈光ト並ビカザリンポイント岬燈ヲ望ミシク  
 ル片右舷機ニ支障アリ即之ヲ停止シ左舷機ノコヲ以テ進行

0656

横濱分社印出

スル約二時間ニシテ針路ヲ更ニ東ニ定ム時ニ午前五時五分ナ  
 リシ六時五十分東ニ南ニ變針シ七時二十五分又北三十九度  
 東ニ改メ八時十五分水先案内者ヲ參セテスピットヘツド  
 錨地ニ向フ時ニ皇艦朝日ノ港ヨリ出ブルニ會ス信號ニ  
 曰ク本日水雷發射ニ赴ク結果良好ナリ直クニ回航取朝  
 日遂ニ就クピント談艦ハ此日午後一昧ノ煤烟ヲ留メテ遂ニ  
 水天交界ノ間ニ没シ了リス九時十分スピットヘツドニ投錨ス水  
 先料ハ七磅八志三片ニシテ別ニ噸統トシテ二磅ヲ拵ヘリ  
 スピットフォート 北四十九度東 フォールスフォート南五十五度東  
 フォート南十三度東  
 水深 十三尋 底質 泥  
 氣象 此間天候ニ異状ナク海上又平穩ニシテ常ニ晴陰略不相干  
 ナシ偏西風ノ連吹スル所トナリ風力稀ニ四ニ及ビ寒暖計ハ七

0657

十四度ヨリ六十一度ノ間ヲ上下シ晴雨計又三十吋二一のヨリ三十吋の二のニ昇降セリ海水ノ温度ハ六十三度ヨリ六十九度ニ及び驟雨ニシテ遭遇セザリシ

海流

美島ヨリラウエイ燈臺ニ到ルノ航途クヘズ向岸流ノ影響ヲ受ケタメニ偏北セシトセリ及マリ夫レヨリウツシヤニ島ヲ過キ英海峡ヲ横断スルモ感受セシ所歟シ

スピットヘッド碇泊

禮砲

着港ノ後英國政府及ゴホーワマウス軍港司令長官ニ對シ禮砲ヲ行フ陸上ナル禮砲ハ其臺ヨリ發砲セリ

八月八日英國皇太子プリンスオブウェールズ親王御乗船オスボーン群島及サレワイト島離宮ニ成ラセラル即ケ皇禮砲二十一發

ヲ放フ

八月九日ゴホーワマウス軍港司令官來訪ス退艦ノ節十一發ノ禮

砲ヲ行フ

羊旗花ニ吊砲 七月三十一日英國皇族ダートマスエゲンバラ親王薨去ニワキ

五日間羊旗ノ禮ヲ行ヒ八月四日ハ御葬儀當日ナルヲ以テ吊砲五

十五發ヲ行フ

八月五日ホーワラス軍港司令長官ノ通牒ニ曰ク伊國々王ウニベルト

陛下崩御ニワキ英國軍艦ハ八月九日迄羊旗ノ禮ヲ行ヒ且ワ伊

國々旗ヲ大擡頭ニ羊揚スベシト於是本艦又之ニ倂ヒ弔意ヲ

表ス

訪問 當軍港ニ於テ訪問シタル諸官憲ハ九ノ如シ

軍港司令長官 海軍大將 セーモア氏

軍港司令官 海軍少將 アルドリウケ氏

師團長 陸軍中將 ラッセル氏

氣象 本港碇泊中ハ至トシテ偏西風ノ影響ヲ受ケ波浪稍高クシテ

雜錄

舟楫ニ便ナラズ軍需品ノ積載タメニ渋滞セシト甚シカリシ殊ニ  
 八月六日正午頃ヨリ氣壓ノ低下著クシテ午後四時ハ二九吋三  
 ニヲ示シ尚降下ノ徵候止マズ加フルニ乾濕兩球ノ差漸ク減少シ  
 乱雲飛ブガ如ク激浪舩ニ碎ケテ風力愈々強シ其方向南々西  
 ヲリ左旋シテ南西ニ變シ四乃至五ニ及ビ更ニ右旋シ正西ニ至リ  
 風力最モ強ク遂ニ六乃至七ニ達セリ乃ク更ニ一錨ヲ増加シ左  
 舩二節九舩六節即チ知ラズテ荒天ニ備ヘ以テ艦位ヲ保トス午  
 后六時ニ至リ風雨鉞ハ二九吋二ノヲ以テ最低ヲ示シ夫レヨリ徐々  
 日昇騰ヲ始ム此間雨滴微細ナルヲ濕霧ノ如ク又降止常ナシカクテ氣  
 壓ノ上昇ト共ニ風力遙減シ降雨全ク止シ正子ニハ略常態ニ復シ疾  
 風ヨリ軟風ニ變ビト雖モ風向ハ依然トシテ偏西ニ在リ時ニ氣壓二九  
 吋五四氣温六十四度ヲ示シ乾濕ノ差五度ヲ現セリ

八月十三日ワイト島沖ニ於テ十里乃至十七里ノ速カク以テ水雷公

試發射ヲ行フ發射管花ニ水雷共ニ故障ナリ頗ル好成績ヲ得

タリ

十四日、十五日、十七日、石炭ヲ搭載スル一六六の噸入夫ノ奉作甚シ緩慢ナルヲ認め三井物産會社ノ受負フ所ナリ彈藥ハ天候ノ平穩ニ象シ前後數日ニ涉リ漸ク積載シ了ルヲ得タリスピット（ワド）ニ在ル一十九日薪水ノ補給後ニ全シ

一

二

0661



自スビットへワド至マルタ

行程二一五八哩三

航路

三十二年八月十九日午前八時スビットへワドヲ辞シテ愈回航、途ニ上ル彗  
 彗ヲ搭載シ艀荷ヲ移動セシヲ以テ羅針ノ感應ニ多少ノ変化ナキ  
 能ハズ乃ケ再々之レガ修正ヲ施シ自差ヲ測ル午後三時四十五分北  
 緯五十度三十九分十八秒西經零度五十六分四十五秒ヲ以テ起程  
 地下定メ針路ヲ西南西ニ操リ英海峡ヲ航下シビルガフポートランド  
 ヤシカスワイヤ諸燈ヲ右ニ望ミ八月二十日午前二時二十分スタートポイント  
 島沖五哩ヲ所ニ至リテ南五十七度西ニ定針ウツヤシ島ニ向フ午後  
 二時四十分談島西燈臺ヲ距ル一十七哩ニシテ南五十四度西ニ定針以  
 テウツヤシ岬西二十五哩ノ沖ニ道ヲカントス二十日傍午緯度ノ位置ヲ按ズ  
 ルニ艦ハ正ニビスケール湾ノ中央ニ於テ聊カ航路ヨリ脱シ西方ニアルヲ認メ  
 タリ二十日午前四時半ウツヤシ燈光ヲ北東ヲ東二十哩半ニ見テ南二

録  
直

十度西ニ抵レ西葡ノ沿岸ヲ南下シバークング島燈光ニヨリ艦位ヲ確認  
 シ二十三日午前三時四十分ロツカ岬燈ヲ距ルニ十哩ニシテ針路ヲ正南ニ  
 変シセシトヴィンセント岬西十哩ノ地ニ達シ更ニ南四十八度東ニ變針シ  
 モロツコ西北端ナルスパール燈臺ニ向フ時ニ午後一時四十分ナリシ此夜  
 機関ニ故障アリ停止スル一二時間餘タノニ艦位ヲ保守スルノ能ハズ  
 明クレバ二十四日東天將ニ曉ヲ告ケントスルノ時遙カニ亞弗利加西北岸ヲ  
 望ミ艦位ヲ推測スレバ正ノ潮流ノタメニ南極セルルノ甚クシキヲ見タ  
 リ於是便宜操針以テスパール燈臺ヲ五哩半ニ航過シ所謂ジブラル  
 タル海峡ニ入り十時三十分ムロツコポイントヲ航シ眺メ爰ニ針路ヲ南七  
 ナ七度東ニ定メ直行アルボラシ島ヲ指サシム午後七時十分談燈光ヲ  
 航横八哩ニ見テ南八十八度東ニ變針シ亞弗利加北岸ニ沿フテ東行  
 テネー岬頭十九哩ノ沖ニ到リ(二十三日午前二時三十分)南八十三度東ニ變  
 針シカギンマケワフベンガットノ諸岬ヲ視界ノ内ニ航過シブーガンター

カウエロツサノ諸燈ヲ各七哩た三哩乃至六哩ヲ離シテ、適宜航ヲ轉シ  
 テ八月二十六日午前四時六分ウスマンビユラ燈光ヲ船横六哩ニ望ミテ南  
 五十四度東ニ變針シ六時二十五分カニ山右トセバ岬中間ヲ過ギ南六十九  
 度東ニ變針シ以テケレボボンヲ五哩ニ航シ二十七日午後六時五十五分  
 パンテラリヤ島東北燈臺ヲ南方九哩ノ地ニ致シ夫レヨリ直行ゴザ島  
 北七哩ノ域ニ向テ二十八日午前九時五十五分ガアレツタ港ニ着キ水先人  
 ヲ乗セテ港内ニ入り十時五十三分艦首ヲ港ニ振リ向ケ芽八及芽八A  
 ノ浮標間ニ着尾繫留ス

氣象大略 スピットヘド岬港ノ節晴雨計ハ三の吋九のヲ示シ氣温六十四度乾湿  
 ノ差又四度ヲ超ヘ雲行緩徐ニシテ萬象悉ク好天ノ徴ヲ表セサルナリ此  
 航程概シテ雲霧駁ヲ見ルイ少ナク二十一日ビスケル灣上正午緯度ヲ測リ  
 得ガヨリシト唯一回アリシニ過ギズ太平洋沿岸航行中ハ概テ偏西至  
 輕風或ハ軟風連吹シ地中海ニ入ルニ及ンデ轉テ偏北輕風ヲ受ケ

アルジェリーケニスノ北岸ニ於テハ偏南輕風乃至々輕風定吹シ掃ニ東  
風ニ會ス

海流

英海峽ヲ去リウツシヤン島ニ向フノ途上速カ一哩弱ノ北西流ニ遭ヒビスケ

灣ニ於テハ一晝夜十哩乃至十三哩ノ南西流ニ進ハレフイニステール岬附近

ニ於テ轉ク北行逆流ヲ感シ夫レヨリセントビンセント岬ニ至ルノ航途ハ所

謂葡萄牙海流ナルモノ影響ヲ蒙リノハ乃至ノ九ノ速カヲ以テ南

艦セラレタリ殊ニ又ノバーテル燈ヲ認識スルニ先ケ艦位ノ偏南セシト甚ダ

シキヲ見タリ亞非利加北岸ハ常ニ東行ノ順流ニ參シ一晝夜平均

二十四哩乃至十七哩ヲ測リ得タリ

ヴァレタ港碇泊

禮砲

入港ニ際シ英國ノ旗及軍港司令官ニ對シ禮砲ヲ行フ一ハ陸上砲臺

(税関背後ニ礼砲台)ヨリ應砲シ一ハ旗艦ハイバーニヤリ砲臺セリ

八月三十日モルタ軍港司令官フトソン少將來訪退艦ノ節十三發ノ

禮砲ヲ行フ

訪問

當軍港ニ於テ訪問ニタセシモ、尤ノ如シ

島守代理

陸軍少將 ロードユングルトン氏

軍港司令官

海軍少將 ビーワトソン氏

要港司令官

陸軍少將 オーカラハン氏

在泊軍艦 英艦「ビクトリアス」<sup>官</sup>「アビドル」<sup>官</sup>「アステラ」<sup>官</sup>「ルバート」等在泊ス軍港司令

ハ其將旗ヲ老艦「ハイバーニヤ」ニ掲ゲ尚ホ造船所澳内ノ公所ニモ亦之ヲ

掲グ司令官及ビ其幕僚ハ此公所ニ於テ日常ノ事務ヲ見ル

雜記

碇泊中舵機ノ檢査ヲ施行セシニ水壓管ノ「アレンダ」亀裂セルヲ發

見シタリ依テ當軍港部ニ就キ之ガ修理ヲ依頼セシニ頗ル好意ヲ以テ甘

諾シ即日新造直ニ面附シ来レリ

税関廳會及玉塔<sup>官</sup>ノ屋上ニ報時球ノ設ケアリ欧州中央標準時乃チ

綠威平時二十三時分零秒ニ於テ落下ス詳細ハ税関ヨリ配付セル紙

片ニ就テ知ルベシ然レモ其時刻ハ常ニ確實ナルヲ保シ難シ

日没前五分時ニ於テ陸上ナル信標等ニ黒球ヲ掲ゲ其落下ヲ以テ日没時  
ヲ表ス在泊軍艦ハ眼高差ノ如何ニ関セズ之レニ倣ヘリ又港内ニ於テ銃  
發スルヲ妨ケス

水先人ハ港外約ニ哩ノ所ニ於テ乘艦ス水先料ハ出入合シテ三磅十五  
志ヲ辨ヘリ又繫留花ニ解繫ノ時水先人ノ端舟及人夫ヲ使役シテ十  
五志ヲ辨テ港内碇泊中塵埃灰燼檢査用トシ端舟ニ隻ヲ雇フ  
其貨銀一噸ニツキ灰燼ハ五志宛塵埃ハ六志宛ヲ辨ヘリ石炭ヲ  
搭載セシ一五百噸一噸ノ價格ニ十四志十片トス

0668

自モルタ至ポルトセード

行程九六八哩

航路

九月二日午前八時半浮標ヲ離レ港外ニ出テ回轉圖測定ヲ行フ蓋シポルト  
 セード道傍ハ総テ卑低層間認識ニ便ナラズ拂曉前ニガミエツタ及高  
 燈臺ノ燈火ヲ認メ艦位ヲ定メ入港スルノ便利ヲ計ルニ午後五時頃火  
 發スルヲ宜シトス徒ラニ碇泊シ或ハ航途速力ヲ加減シテ時ヲ費スヨリ  
 此處ニ回轉圖測定スルノ便レルニ若カガレバナリ了ラ午後五時北緯三十  
 五度五十六分東經十四度三十三分三秒ヲ以テ起程地ト定メ二十三号浮ノ  
 珊瑚礁ヲ避ケシガタメ南東ニ馳ルノ約十一哩夫レヨリ針路ヲ南七十四  
 度東ニ定メガブド島ニ向フ乃ケ此針路ハ略大圖ニ近ク且ツ中途艦  
 位ヲ確認スルニ便ナレバナリ九月四日午前十時四十八分該島燈臺ヲ尤艦  
 正横ニ見テ南六十一度東ニ操針シ以テガミエツタ燈ヲ射光界内ニ航  
 過シ六日午前四時ポルトセード高燈臺ヲ望見シ艦位ヲ定メ五時半水

0669

先人ミラリヲ衆セテポートセード港ニ向フ六時運河最北端ナル赤青両  
標燈間ヲ過キ六時半港内ニ入り右舷錨ヲ投下シ後退シテ貯炭所側  
ナル第六星浮標ニ舳艦繫留ス後舳艦ヨリ各々ホーサーヲ陸岸ニ取  
リ保安ニ備フ

氣象

マルチ碇泊中ハ頗ル好天氣ニシテ晴雨計ハ僅ニ二九吋九七ト二九吋九二  
トノ間ニ移變シ其差甚ク少キヲ見ル寒暖計ノ示ス所又セキニ度乃  
至八十九度ニシテ微風常ニ湾口ヨリ吹入シ朝夕稍冷氣ヲ覺ヘタリ  
マルチタルホートセードニ至ル途次適々断雲大空ニ浮遊セシテアリ  
ト雖モ甚高キ長ヘニ日月ヲ吐キ濃霧淡靄ノ視界ヲ妨クルヲナカリ  
キガブド島附近マデハ多ク偏北西ノ輕風乃至軟風ヲ受ケ夫レヨリ右旋  
シテ北風トナリ更ニ轉シテ北東輕風トナルポートセード入港時ハ殆んど  
無風ナリシ氣壓最高三の吋ニ最低三の吋の二氣温最高八十二  
度最低七十四度乾湿兩球ノ差四度乃至十度

0670

海流 此航路主トシテ偏西流ニ遭ヘリト雖モ其速力五哩ヲ超ヘタルヲナシ當

時多島海附近ニ於テハ北東風連吹シタルモノ、如ク偏西流ノ存在スル

ハ蓋シ之レガ爲メナルニシ水路誌又之ヲ曰ヘリホートセード入港ノ際ニハ偏

東流潮ノタメ側ニ盛セラレ大ニ操舵ニ困難ヲ感ジタリ往年英艦

ビクトリヤス座礁ノ原因ハ天候險惡ニシテ目標ヲ認知スル能ハカリシニ

依ルモノアリント雖モ亦此偏東流潮ノ影響ヲ受ケタリシヤ疑ヒナシ云

ト水先人ハ語レリ

ホートセード碇泊

氣象大略 碇泊中ハ北西ノ輕風アリ氣温日中八十七度ニ昇リ夜間七十七度

ニ降ル晴雨計ハ最高三の寸九最低二九寸八五ヲ示シ乾濕兩球ノ差五

度乃至八度ニ及ベリ

雜記 當港ニハ英國軍艦ハルシシシ及ヨロバノニ隻在泊セリ

常用時ハ高燈臺ノ平時ヲ用ユ又同燈臺ニ報時球ノ設備アリテ

毎日午前八時正午十二時及午後四時ニ落下ス以テ經線儀ノ比較ニ供シ

得ベシ(押トセト港國  
及水路誌參照)

港則ヨリ銃砲ノ放發ヲナスヲ得ズ故ニ禮砲及銃發ヲ行ハズ

陸上ニ政廳アリ地方長官駐在ス

水先人ハ船首カハイロトト自書セル運河會社ノ小汽船ニ搭シ港外ニ三海埋ノ

附近ニ漂泊シ入港船舶ヲ待テ附屬小艇ニ駕シテ舷側ニ乘レリ總テ運河航

行ノ船舶ハ一切水先料ヲ拂フヲ要セスト雖モ慣例ニヨリ謝金ヲ與ヘシ

ト下ニ記スルガ如ク水先人退艦スルヤ直ニ船尾ノ吃水ヲ檢シテ水先要

領書ニ記註シテ運河會社ニ送ル

運河通航準備ノ之レヨリ先キ艦尾ノ過沈ヲ可成減少セシムル目的ヲ以テ豫備彈藥

豫備機貝等ハ英國先艦前豫ノ前部ニ格納センコトヲ計リ略其手段

ヲ及セント雖モ以テ其過沈ヲ避クル能ハズ而シテモルタニ到着後石炭

罐水飲水ノ類ヲ搭載シテ得タル吃水トホトセド到着後吃水ヲ比

0672

較スレバ九ノ如シ

吃水

モルタ

前部二一呎六吋

後部右舷廿六呎二吋

左 九呎廿六呎六吋

是レ下ニ示ス諸重量物ノ減却ト移動トニ外ナラス

モルタ出艦ノ時

ボートセード到着ノ時

石炭 四五五噸五三一

一六六噸四三

罐水 五〇噸

一五噸

飲水 四九噸

二四噸五

前部輕荷水艙内海水ノ噸

十八噸

尚ホ「ストリームケイブル」六噸七ヲ前部「シート」ケエシ「カ」ニ移セリ

二五運河可航吃水ハ二五呎七吋ヲ超スヘカラス即ケ艦尾ヲシテ浮出セシム  
ルノ更ニ三吋トク要ス於是先ツ前部艦底ニ満水シ其結果ヲ檢セシニ  
次ノ如シ

自第ニ筋至第五筋 二重底

五、三〇二、  
噸

自第五筋至第七筋 全

三、八八六、

自第七筋至第十二筋 全

一、二、三〇六、

自第十二筋至第十五筋 全

九、五三六、

自第十五筋至第廿筋 全

二、五、九六四、

自第廿筋至第廿七筋 全

一、〇、八四三、

自第廿七筋至第卅筋 全

二、七、二九〇、

自第卅筋至第卅七筋 全

二、四、四七〇、

合計 一、九、五九五

但シ各二重底ハ内底ヨリ約一〇〇ノ密着突ノ餘存ヲ存セシメタルガ故ニ水

量稍過大ヲ示セザルノ感アリ而シテ之ヲ得ルニ吃水ノ如シ

前部 廿一呎七吋半

右部右舷廿五呎五吋

今 左舷廿五呎九吋

平均 廿五呎七吋

是可航吃水ニ達セルモノナリ

本艦ハ出航前ヨリ船積證書ヲ得ルルノ暇ナカリシヲ以テ運河會社

ニ役員ノ派出入ヲ承メ登簿噸數ヲ徴セシム大會社ト商議シ本艦運

河航行中ニ他船船ト遭遇スルニ致テ自ラ停船スツルヲ該船舶

ヨリテ航路ヲ避ケシメシメテ契約セリ

運河通航費

登簿噸數 二九九八噸六七三対スル運河税 二六九八八法〇三

但シ一噸レツキ九法八割

艀船料

五九九七法八四 (二日間八分)

「テ」ガ「レ」料

二四〇法〇〇 (二日間分)

慣例ニヨリ水先人ノ契ヘシ謝金

「ボ」トセ「レ」入港ノ時

一磅

自「ボ」トセ「レ」至「ボ」トセ「レ」湖

三磅

自「ボ」トセ「レ」湖至「ボ」トセ「レ」湖

四磅

0676

横濱分社印刷

自ポルトセド至スエズ灣

行程 運河 八十七哩 二哩 合計 八十九哩

航路

九月七日午前五時水先人「ネグロット」(伊國人)ヲ糸々通航ニ要スル準備ヲ了  
ヘ七時ホーサイニ條ヲ曳船ヲタシニ取り首尾ノ繫索ヲ解放シ六時錨ヲ  
抜ヒテ徐々運河ニ入ル隨行船ハ三鐘乃至四鐘ノ距離ヲ隔テ、本船  
ノ後ヘシ從テ

尤船ヲオルヤードヤームニ着流ヲ掲揚シ以テ曳船間トノ速カ信號ニ俟  
ス回轉廿五乃至四十五ニシテ規定速カ五哩以上ニ定テシ一等ナラス蓋  
シ信號所ノ遠近ト河幅ノ廣狹曲度ノ多少如何ニヨルヤリ八時二十分ヲス  
エル、エツケ信號所ニ於テ停船セル 独船「ケニスバルグ」併船「オーストラリア」ノ  
二隻ヲ過ギ正午廿哩ノ航標ニ達シ二時七分イスマリヤニ着シ暫ク駛力  
ヲ減ジテ水先人ヲ換(後者ハ先ヲビギスロフポスト 呼ビ希臘國人ナリカクテ  
午後五時三十分グレートピット湖ノ南ニ到リ航路ヲ避ケテ便泊尤船

0677

錨ヲ投ス

艦位

グレートブリテン湖中央標燈

北西七哩半

同湖南西四哩燈臺

水深

船尾各五尋底質泥土アリ

九月八日黎明先艦前日ノ如ク曳船ニ舳處ヲ取リテシタリテ從ヘ五時三

十八分再ニ通路入りヌエズ灣ニ向テ運河中曲折最モ甚クシキハリツルビツ

ク湖内セテ運ヨリ七十一哩ニ至ル標燈間ノ水道ニシテ向潮時際

ニ殊ニ行航ノ難ク感心セシム七時廿二分ケラシク停航所ニ於テ英商船テ

ルナレテ避ケシメ七時四十分八十四哩ノ標側ニ於テ曳船ヲ放テ独行運河

ヲ通過シテ八時五十分十分ナリ此日ヌエズ灣ニ於ケル高潮

ハ午前十時頃ニシテ水先人ハ漲潮時ニ於テ南下スルヲ好ムズ是レ艦

首ヲ尤太ニ振り墜堆ノ危険ヲシテ多カラシムバヤリナリ一時二十五分水

深七尋ノ地ニ到リ右舷錨ヲヌエズ灣頭ニ投ズ

艦位

カライケビレー燈ニエーホトエック間 五十九度廿六分  
ニエーホトエック及ニエーホトブイ間 四十二度四十七分

氣象大略

ボートセードヨリグレートビック湖ニ至ル間ハ偏北西至輕風ヲ受ケ天氣  
伏晴ニシテ氣温最高ハ十七度ヲ示スニ過ギズ大氣ノ乾燥セルヲ非常  
ニシテ乾濕兩球ノ差十五度ニ達セリグレートビック湖ヨリヌエズニ至ル間ハ  
偏北至輕風定吹シテ天候清朗一欠ノ浮雲ヲ見ズ晴雨計三の時  
ハ乃至三の時一寒暖計七十二度乃至八十度乾濕兩球ノ差稍  
減少シテ八度ヲ表示ス

ヌエズ灣 碇泊

氣象大略

碇泊中ハ風向正北ヨリ北東ノ間ニ偏シ其力微弱ニシテ暑氣ヲ  
拂フニ足ラズ寒暖計日中九十一度ニ昇リ夜陰七十五度ニ降ル晴  
雨計ノ高低僅少ニシテ九時八七ヨリ九時七五ノ間ニテ天候概シテ

快晴ニシテ深夜露満ノ甲板ヲ洩スル影シカリシ

雜記

ベリスシ内ニ英艦ノリクエ艦ハルトニ隻在泊セリ

本艦運河ヲ航過スル時湾内ニ英艦獨ノ高船五隻正ニ北止セルト

ニ好潮時ヲ待ケツアルヲ見タリ

九月九日及十日ノ兩日ニ於テ石炭ヲ搭載セル一千の五十噸ナリ毎噸ノ價格卅

六志トス

土耳其政府ニ對シ禮砲ヲ行ハント欲セバ豫メ政廳ニ通報ヲ共フルヲ以テ便トス

答砲ハスエズ街丸方ノ丘上ヨリ應ズト云フ本艦ハ遂ニ之ヲ發セザリキ

九月十一日拂曉日本郵船若狭丸來テ我丸側ニ泊ルヲ見ル就テ新聞ヲ

得聊々祖國ノ音信ニ接スルヲ得タリ互ニ航途ノ安全ヲ祈リ北駛南行相

分レヌ

自スエズ至アデン

行程

一二七六哩四

航路

九月十日午前九時抜錨カラケビール礁ノ北方ヲ迂繞シ諸暗岩ヲ避ケテ  
 ニーボルトボツノニ至リ北緯二十九度五十分ヲ秒東經世二度廿二分五十分ヲ以  
 テ起程ノ地ト定メ適宜操針スエズ灣ヲ南下シ常ニ西岸ニ倚リテザア  
 ラナラスガリツブノ兩燈ヲ二哩左ニ過キ以テ東岸附近ノ危險ニ接スルノヤカ  
 ラシムキ後十一時三十七分アシユラフイー燈ト花び次ヲダケユバル海峽ヲ過キ十二日午  
 前二時四分シヤドロン島ヲ四哩ニ航シ針路ヲ南廿七度東ニ取り兄弟島東  
 側約五哩ノ所ヲ經テ午五時八分ダエダラス島ト相花び之ヲ距ル僅ニ四  
 哩ニ過キガリシ蓋シ流潮ノ横歴ヲ受ケタリシヤ疑ヲ容レズ島周水淺ク  
 シテ四圍ノ暗岩突兀トシテ指呼スベシ夫レヨリ針路ヲ南廿一度東ニ  
 抗リ漸ク南下シテ十三日午前三時十五分東經三十七度二分ノ地ニ於  
 テ夏至線ヲ經過シ熱帯ニ入ル正午北緯二十二度七分東經世七度

0681

五十六分、天測点ヲ得、午後一時南十九度東ニ定針シ以テアラビヤ沿岸  
 群礁ヲ遠カラントスナリ、正午南東流ノ存在スルヲ認メ、午後四時三十分  
 分南世三度東ニ操針シ直行、ゲムベルキヤ島ニ向フカクテ、十五日未明  
 雲霞段朦朧ノ裡、約九哩ニ之ヲ望ミ、ゲムベルキヤ島ノ水道ニ入り南十二度  
 東ニ操針シ、其ヅベルズガ島東角ト相並ブニ及テ、南十六度東ニ  
 操針ス。此夜十時四十九分、ベルマニデエッ大水道ヲ航下シ、ペリム島高  
 燈臺ヲ北東イ北六哩ニ見テ、南六十三度東ニ折針、亞典灣ニ入ルテ  
 駛走スル、約六十二哩ニシテ、十六日午前四時北六十二度東ニ操針シ  
 午前九時十三分、亞典灣外ニ投錨ス。蓋シ當初コロニボ直行ノ後、  
 定ナリシモ汽機ノ調整ヲ要スルモノアリシヲ以テ、遂ニ中途寄港スル  
 一トハヤリシナリ

艦位

ラウンズ・アイランド及アラウレングライトシツ、九十五度  
 ピンナックルアイランド及アラウレングライトシツ、百十五度世分

0682

水深 七尋 底質砂 (貝片アリ)

氣象大略 紅海南下ノ全途天候多クハ快晴ニシテ雲翳ヲ見ルコト少ク間々  
拂曉薄暮ニ際シ水天交界ニ接シテ淡雲翳ノ發シアリト云ヒ大氣比較  
的乾燥ニシテ遠シニ回ノ驟雨ガモ来リ犯ガズ微風ニ常ニ航跡ヲ追フテ  
駛カト相伯仲シ艦内ノ通風於此頗ル不良トナレリ風向凡ソ正北ヨリ  
北ニ西ニ變移シカニテ出テズ爲ノニ氣温ノ昇騰甚ク大ニシテ艦橋ニ  
於テスラ九十三度ニ及ビ經線儀室ノ如キハ午前七時半ニ於テ九十六  
度ヲ達シ午後二時頃ニハ九十九度ヲ示セシコトアリ機関室内ニ至ッテハ  
最高温度實ニ百ニテ度ニ達シタリ海水ノ温度又大空中ト大差ナリ  
十四日午後ニハ九十一度ヲ指シタルコトアリ十五日ゲムベルズガ一邊ニ至ル  
頃北風歇シテ偏南東至輕風トナリバベルマンデッブ水道ヲ過ギ亞  
典灣ニ出ヅルヤ氣温頓ニ低下シ涼爽ヲ覺ヘタリ

0683

海流

由赤紅海ノ海流ハ其方向駿カ一定ノ律ヲ踏ムトナリ且ツ淺灘沙堆

ノ散在スルモノ必カラザルヲ以テ横流ノ感化ハ特ニ警戒ヲ要スルモノアリ

圖誌又之ヲ告グルト頗ル切ナリ幸ニシテ天候ニ異状ヲ見ズ常ニ実

測ヲ施スヲ得クシカバ艦位ノ認定ニ疑惑ヲ生ゼザリキ今正午ニ於ケル

推算兩測点ノ相違ニヨリ海流ノ推算ヲ堪テレバ

航途

海流

流程(廿四時間)

風向

自シヤトワン島  
至アガサガール島

南

十六哩

北西 二五至三〇

自アササ島  
至北緯廿二度七分 東經七十七度十六分

南廿九度東

十三哩七五

北西 二

自全上  
至北緯十八度 東經九度五分

南廿八度五東

十哩五〇

北々西 二

自全上  
至北緯十八度 東經九度五分

南十五度東

十五哩六〇

北 二

アデン灣碇泊

禮砲

到着當日ハ日曜ナリシヲ以テ翌十七日英國ノ旗ニ對シ禮砲ヲ行フ

ラスニルバット角ノ砲臺ヨリ答砲セリ

訪問 當港太守ヲ政廳ニ訪問ス現今陸軍少將其職ニマリ兼ネテ守備隊司

全官ツリ

氣象天略 碇泊中ハ殆シト無風ニシテ寒暖計ハ九ナニ度ニ昇リ頗ル暑氣ヲ  
感ジタリ時刻ニ到リ南西至輕風吹來シ氣温稍降下セリ晴雨計廿九時  
九七乃至廿九時八五乾濕兩球ノ差四度乃至六度トス

海底電線 アテシ港ハ内外兩區ニ分ケレ吃水八呎以上ノ船舶ハ内港ニ入ルヲ得ガ

ルヲ以テ本艦ハ前記ノ錨位ニ就ケリ蓋シ往年軍艦當レノ此地ニ泊ス

ルヤ海底電線布設ノ件ニツキ電信局ト往復セシテアリシモ遂ニ要

領ヲ要ガリシモノ、如ク殊ニ海圖水路誌又一言ノ之ニ及ブモノナキヲ

以テ固ヨリ電線道ヲ設ケ方何ヲ確知スル能ハズ故ニ豫メ萬一ヲ慮リ

テ力能ク錨爪ヲ起スニ耐エ得ルハアイローフヲ附シテ投錨シタリ後刻海

底電信局ノ通謀ニ曰ク艦位恰モ海底電線布設線上ニアリ宜シ

ク配意ヲ煩ハタシトノヲナリシヲ以テ抜緇ニ際シ充分ノ注意ヲ加ヘツ  
リシガ幸ニ事ナキヲ得タリ

雜記

本港ニハ報時球ノ設備ナキヲ以テ「ラスメルバト」角天測矢附近ノ民家

ニ於テ單高度法ニヨリ經線儀ノ誤差ヲ測定シタリ

紅海航行中ハ湿度甚ク昇騰シタルヲ以テ步軌ノ変化極メテ大ナラ

シトテ豫想セシモ「キウ」天文臺ノ下附セル檢査証ニヨリ湿度ニ對ス

ル日差改正率ヲ加減シ以テ巫典ニ到リ天測ノ結果ト比較セシニ幸ニ

シテ大差ナキヲ得タリ

アデン寄港ハ單ニ主機檢査ニ要スベキ約三十時間碇泊ノ豫定ナリシ

ガ其間又二百八十噸ノ石炭補充ヲナセリ一噸ノ價格五七志六片ト

ス